

ハイライト

対談

これからの異文化宣教
「国内の海外宣教?!」
大田裕作・宇井秀樹

No.255
Sep. 2026



高橋央也・恵宣教師 (7月10日)

宣教レポート

近況&祈禱課題

インフォメーション



R・K 宣教師 (6月30日)



相馬宣教師 (6月16日)



弱い時に主が働いてくださる

要配慮国 神戸希望



いつもお祈りとお支えを感謝します。怪我や病気は回復しました。こちらは雨季ですが、マンゴーが安いのでラッシーを作るのが楽しみです。迫害的な法律は次々可決され外国人滞在ビザや現地クリスチャン活動が制限され、P 弁護士はこの 20 年で一番厳しいと言っています。恐れ過ぎないように、しかし知恵を持って行動したいです。嬉しい事は、シングルマザー R の婚約です。娘 O と幸せになって欲しいです。聖書ポストカードや物作りプロジェクトは女性の支援のために続け、日本語学校に生徒が与えられますように。学校経営者の P は方舟博物館建設のためクリスチャンの建築家を探しています。時々 P の早朝礼拝に行きます。P の奥さんや賛美チームの女性たちのため小さな集会を計画しています。「神の娘、キリストの花嫁、御国のプリンセス」を伝えアイデンティティの回復、神に

愛されている事を知ってほしいです。フェイシャルマッサージやジェルネイルを通して直接触れるケアで、大切にされる体験ができるように願います。近所の未信者なども招きたいと言われました。私の助け手も欲しいです。また B 族の妹 S から正式に養護施設のリーダーになる意向を聞き、祈り励ましています。また個人的に日本語を教えている牧師夫人 G は心の問題があり友人が必要なので毎日来て欲しいと頼まれました。途中で眠ったりしますがこの交りが彼女にとって楽しいものとなるように願っています。これからもお祈りよろしく願います。



見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。

インドネシア R・K



現在、次期派遣を待ち日本にいます。久しぶりの長期滞在となり、母教会での奉仕と交わりを通して霊肉の回復の時となり、また高齢の両親の魂の救いを切実に祈る時となり感謝です。

母教会は、前任牧師の野口日宇満師とご家族をインドネシアへ派遣してから 12 年が経ち、昨年 10 月には奥様の野口佳奈宣教師が天に召され、こうした中、私の教育宣教師の働きも終了し、私自身も癌と診断され、教会も大きな試練を通されました。しかし、教会は熱心に祈ってくださり、佳奈宣教師が召された後も決して世界宣教の手を下ろしませんでした。

7 月中旬、帰国中の野口宣教師ご家族を始め、多くの聖徒が集まる教会キャンプが開かれました。賛美とみ言葉が中心で、神様の恵みに満ち溢れる聖会のようなものでした。また野口宣教師ご夫妻のインドネシア宣教の実を見るように、先生が仕える神学

校から日本宣教に重荷のある 2 名の神学生が参加、また、教会の青年たちも喜んで奉仕し、へりくだることを学んだとの証しがなされました。

この一年の世界宣教の激しい戦いの中で、神のみ言葉からそれることなく教会を雄々しく導いてくださった母教会の牧師先生に感謝します。今時がきて、教会は「God is good, all the time!!」と苦難を通して信仰を告白することが許されています。そして一粒の麦のゆえに恵みが注がれていることを感謝します。

9 月、教会はインドネシアのロンボク島へのミッショントリップを予定しています。この時に、私自身にも新しい宣教への扉を見せてくださるようにと切に祈っています。どうぞ、お祈りに覚えていただければ幸いです。

近況 & 祈禱課題

アルゼンチン 在原繁・津紀子

- ・ピライ教会の牧師館建設のため。7 月に土台が完成しました。
- ・祈り会がさらに熱く燃やされ、民たちが強められるように。
- ・経済的問題と戦う牧師たちの必要が満たされるように。

タイ 新納真司・玉皇

- ・新たに始まった月一回の無料英会話教室（イングリッシュガーデン）を通して、

神様を求める方々が起こされるように。

- ・10 月 3～4 日に予定されている背骨コンディショニングが祝され、講師日野先生の証しが用いられるように。
- ・9 月のビザ更新のために。
- ・来年 3 月の教会 25 周年記念会の準備のために。

インドネシア 浅井俊貴・ひかり

- ・7 月から新年度が始まり、多くの新入生が入学した（幼稚園 20 名、小中高 40 名、

大学生約 90 名）新入生のスムーズな学校生活適応のために。

- ・この教育宣教の働きを通して、キリストの弟子が育っていくように。
- ・学校が大きくなっている中であって、良い働き手が与えられるように。

イギリス 相馬裕美

- ・9 月から新しい学期が始まりました。たくさんの方の留学生と良い信頼関係を築いていくことができるように。



神に招かれている新しい家族への救いの計画



要配慮国 ちえ

皆様のお祈りを感謝いたします。

偶像が溢れるこの国にまことの神の福音と救いが広がりますように。スラムでの働きが始まって 10 年目になりました。幼かった子どもたちは成長して、女の子たちは、次々と嫁いでいきます。宣教を共に担ってくれていた子どもたちがスラムを離れて行くことに寂しさを感じることもあります。福音を聞き希望に満たされて嫁いで行く子どもたちは、嫁ぎ先の家族の中で福音を委ねられた者として主の祝福を受けています。迫害が厳しい国ではありますが、彼女たちが導かれて行く新しい土地で待っていてくださる家族さえも主はご存じです。その上で彼女たちは、どこにいても主が共にいてくださり助け導いてくださると信じて、異教徒に嫁いで行くのです。電話越しではありますが、まだ一度も見たこともない私と親しく話し、心開いて

彼らの住む土地に招いてくださっています。これからは、福音のために立ち上ろうとしている青年たちと共に、スラムに残っているご両親やご家族への伝道を中心とし、また、スラムの外へも出かけ、すでに福音の鍵を握って置かれている子どもたちを訪ね励ます機会が与えられるようにと願っています。自他共に認める超方向音痴の私には、この広大な国を移動することは、かなり大きなチャレンジですが、常に伴ってくださっている主が会おうべき方々のもとに導いてくださると信じています。そして主の御旨である福音を一人でも多くの方々に届ける事が出来れば幸いです。是非お祈りくださいますようお願いいたします。



将来に起こること



要配慮国 みか

先日、未伝部族伝道ネットワークの会合で「危機管理」が議題に上がりました。というのも、州外からやって来たクリスチャン（未伝部族出身）が大胆に伝道する中でその方法が問題視され、最終的に拘禁刑 2 年の判決が出たからです。彼はソーシャルメディアも使い、過激な言葉遣いなどもあったので、以前より注視されていた方でしたが、わたしたちの住む地域で活動中に拘束されたのです。

身近で起きたこの出来事にみな驚き、様々なことが話し合われました。危機管理の徹底、写真やソーシャルメディアの使い方、へびのように賢く（マタイ 10:16）知恵を用いることなど。しかし最後に再確認されたことは、「こういうことはこの先必ず起こるだろうし、私たちはその準備ができている」ということでした。細々と個人伝道で「平安の子」を探しているレベル

ならまったく問題はないでしょうが、これから先、刈り取りの時が来て多くの受洗者が与えられたなら、私たちの身にもこういう圧力が必ずかかるでしょう。「そうなることをわたしたちは知っているし、準備はできている」「刑務所に入れられたら、そこにいる人たちに伝道ができるから」と口々に語る年下の同労者たちの姿を見て、頼もしく誇りに思いました。

その翌日、礼拝のメッセージは奇しくもルカ 9:26 から「イエスの御名を恥とはしない」でした。イエス様の十字架の贖いによってわたしたちは永遠の救い、命をいただいています。大きな祝福を日々受けています。しかし同時に「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです」（ピリピ 1:29）と、聖書は教えているのです。

- ・留学生が神様と出会えるミニストリーの拠点となる家が与えられるように。
- ・次世代の働き人が与えられるように。

インドネシア 渡部 惇・王麗媛

- ・日本語教会、日本人宣教の働きが主の力で前進するように。
- ・8 月から始まる大学での日本語教育の働きのために。
- ・王先生の日本での日本人配偶者ビザが早く下りるように。

国内 国際教会牧会 宇井英樹・由美

- ・東京ニューライフ国際教会の歩みを主が祝福してくださるように。新しい人々が加えられるように。
- ・宣教師夫妻チャンドとヤオのこれからの歩みのため。
- ・アウトリーチミーティング、ゲンゴカフェとベトナム語の働きのため。

インドネシア 今西勇太・茉莉

- ・7 月 2 ～ 6 日に、中部ジャワでリユニオ

ンキャンプが開催されました。インドネシア国内外から 246 名が集い、これまでの神様の忠実さとその実を共に感謝する時となりました。多くの懐かしい再会や新しい出会いが与えられ、安全と健康も守られたことを感謝。

- ・忙しさの中でも神様との交わりを第一にし、心・身体・霊が守られ、必要な休息も与えられ、主にあって健やかに奉仕を続けていけるように。

対談：これからの異文化宣教 「国内の海外宣教?!」



大田裕作・宇井英樹

大田：今日は、世界の様々な宣教の流れを考えながら、日本の宣教のあり方等についてご意見を伺いと思います。かつてのミッションフィールド（宣教師が来て、伝道をしてもらっている地域）の教会が立ち上がって、ミッションフォース（宣教する側）に移ってきている現状があります。先だって、ベトナムで宣教会議があり出席しましたが、それはインドネシアの宣教団体が送り出し宣教活動している国で行うカンファレンスで、この団体は当宣教会をモデルに安海先生が指導してインドネシアで作った団体です。この14年で、4人から50人の宣教師に増加し、16カ国へ送り出しています。アジア中心に中近東、アフリカまで。圧倒されましたね。そして、日本にいる外国人への宣教が視野に入り、4百万人を超える在留外国人がいる日本。その中には私たちが宣教師ビザをもらって入っていくのが難しい国々からも来ていると聞きます。先生、何か実感がありますか？

宇井：そうですね。2025年12月末で4百万人を超えた在留外国人たち。そのトップ9はアジア圏からで、実際、アジア系の方々を見る機会が増えました。そういう人の中には、多少のクリスチャンもいるでしょうけど、多くは仏教徒、イスラム教徒、ヒンズー教徒、そしてアニミズムの方々でしょうね。インドネシアの方々（教会は成長していますが、数ではイスラム教徒が世界で一番多い国）やパキスタンの方々も多いですね。日本に来ると、様々なしがらみから離れますが、それでも、イスラムのコミュニティがありますから、母国同様に伝道は簡単ではありません。共産圏からでは一番多い外国人は中国で、次がベトナムです。彼らは本国にいと、信仰を表明して生きていくことには大きな戦いがありますが、日本にいとその傾向がずっと下がります。アジアの人は、家族や親戚のしがらみや自分のコミュニティを大切にせる感性があるように思いますので、本国にいとばその絆がより強く、外に出ればそれが緩くなる。日本にいとば、なくなるわけではないですが、ハードルは下がります。もう一つ、本国にいとばクリスチャンと出会う機会が少ないけれども、他国に行けばクリスチャンと出会う可能性

は高まる。ただ圧倒的に日本人クリスチャン数が少ないので、出会う機会は少ないのですが、それでも、日本に来たらもう少しクリスチャンとの出会いが広がると思う。あくまでも可能性ですが。ここ数年、その分野の働きが広がりシフトがあったと感じています。

大田：海外の未伝部族への宣教をメインにする人が、日本の田舎の未伝地域を見ると、教会がなくクリスチャンも居ないその集落は、外国の未伝の地域と同じに見え、そこに住んで生活し伝道にチャレンジしている。私たちアンテオケ宣教会では、それもまた世界宣教の一部であり最前線じゃないか、フロントラインだということで、数年前にその働きも続けて宣教師の立場で応じていただくようになりました。先生もその一人になる訳ですけど、先生の働きをちょっと具体的に紹介して頂けませんか。

宇井：私自身2020年まで東南アジアに居て、そこの社会情勢により日本に戻らざるを得なくなりました。その前にコロナがあり、その時点でオンラインの働きに移行してしましたので、帰国後もその方向で向こうの教会の働きを継続できました。この教会は国際教会で、一つの街にいとながら25カ国100人ぐらいの大人がヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、北米、南米から来ていたので、皆さんがそれぞれの地域に移られると、その地域の教会に行くようになり、私がケアする牧会対象者がいとなくなりました。教会を閉じた訳ではありませんが、もう牧会する必要性がなくなるとその働きは終了しました。その後、自分たちの働きを祈り求めている中、東京で国際教会の働きを始めることに導かれました。

2021年6月から今の教会が英語と日本語の礼拝を始め、私たちは2022年1月から責任を持つようになりました。今ようやく10人ぐらいになり小さな群れです。国籍でいと6とか7とか。日本人が私たちも含めて3～4人で、様々な国から来られてる方々が一緒に礼拝しています。活動は日本語と英語と全部バイリンガルで、スモールグループに関しては英語と

日本語のそれぞれのグループがあります。

日本に戻ってきて、今在留外国人の数が増えてますよと聞き、最もインパクトが大きかったのが、中国人教会が爆発的に増えてるっていうことでした。訪問すると、なんだこれは！という感じでしたね。何も日本から出ていなくても、向こうから来てくれるじゃないか、という感じ。そして、もう一つの気付きは、日本におられる外国の方々、特に長期滞在者は日本語を話すようになります。一般の海外への宣教師は、その国の言葉を宣教師が頑張って勉強して、ようやく何かできるようになる。その労力すら向こうがやってくれている訳です。彼らは日本の文化を知りたいんですよ。神様は世界中からそういう方々を日本に送ってくださってると思います。

もう一つの日本の教会の宣教への突破口を考えると、その外国人クリスチャン・教会との協力という課題があると思います。日本で毎週の礼拝を教会に来て守っているクリスチャンは大体30万人と言われているようです。一方、4百万人いる外国人の方のなかに、少なくとも10万人はクリスチャンがいると考えられます。日本人クリスチャンが気がついていないところで、

日本でクリスチャンが確実に増えているわけです。上手に協力すれば、日本の宣教戦力は倍増します。実際に、このコラボレーションをどうやって開いていくか、どんな可能性があるのかと考えながら宣教されている先生方と出会うことがあります。この宣教協力は、現実的にはとても困難のようですが、壁を破れず伝道に苦闘している日本の教会・クリスチャンにとっては、死活問題のように思います。(続く)

※この続き全文を読みたい方は、QRコードからお入りください。



— 近 況 & 祈 祷 課 題 —

北フランス 宮坂鉄也・ジャンネメ

- ・主が教会の主要メンバーの霊肉を強め、信仰をリニューアルしてくださるよう。
- ・9月から始まる新学期を新たな喜びで迎えられるよう。新たな求道者が与えられるよう。
- ・また、個人的な問題にも光が当たり、共同体として光の中を歩めるよう。
- ・落胆に留まることなく、新たな希望と期待を持って福音の証人として生きられるよう。



愛することから

要配慮国 戸山大地



無事に P 州にある大学からビザが下り、学生として長期滞在できることになりました。3 月末から現地に戻り、P 州に来て 4 か月が過ぎようとしています。前回の半年の滞在は短期の観光ビザのため、行政的な手続きもなく、賃貸契約を結べないので、すべて語学学校が手配してくださり、寮生活は本当に感謝でした。しかし今回、長期滞在ということで、外国人登録から、住まい探しまですべて自分でしなければならませんでした。外国人登録の完了には、必要な書類をまず家主、警察署、大学などから受け取らなければいけないのですが、とにかく何も進まない。そして、待つ、待つ、待つ、さらに待つ。大学からの書類発行のためにまず窓口に行って、発行に必要な別の書類を用意するよう言われました。家主にその書類をお願いして、3 週間後、ようやく受け取り、その書類を持って窓口に。数時

間待っていると、「もう時間だからまた明日来て」と。翌日行くと、「こっちの書類も必要だったからもらって来て」。最初からすべての必要書類を教えてくれれば 2 日も無駄にせずに済んだのにと思いながら、しづしづ家主にまたお願いしました。

前回の半年の滞在でも、I 国の文化や習慣に触れた気持ちでしたが、彼らのリアルな生活の文化を見させてもらっています。正直、受け入れられませんが、イエス様もこの地に来て住んでくださいました。私たちの愚かさ、洗練されているとは言えない文化や習慣、そして罪深い姿を見ても、イエス様は十字架の道を進んでくださいました。福音の根底に流れているのは愛であること、遣わされた地の人々を愛することから福音宣教は始まっていくことを教えられています。

近況 & 祈禱課題

ドイツ 井野 葉由美

- ・今年中に来年以降の滞在ビザを取得できるように。
- ・弟子を生み出す弟子を育てていけるように。
- ・キリスト者の家族が救われていくように。

韓国 長澤久美子

- ・7 月に手術後 3 回目の検診を実施。結果が良好であるように。
- ・ヨハン牧師夫妻の 8/11 のプレゼンテー

ションのために。宣教師となるための最終試験です。

台湾 高井ハレー由紀

- ・8 月 28 日～30 日に TICC を含む台湾の英語教会三教会合同開催のリトリートが行われます。豊かに用いられますように。
- ・半年ほど異様に忙しく心が疲れ切っていたので、一時帰国 (8/4～8/25) 中に十分リフレッシュできるように。
- ・9 月以降、台南神学院図書館の分類法変

更プロジェクトがヤマ場を迎えます。主の守りのうちにプロジェクトを確実に進めていくことができるように。

韓国 朴ダニエル・リムヨフジョン

- ・10 月 13 日から 16 日に行われる JBA 大阪ビジョントリップのために。
- ・3 月に始まった JBA19 期訓練生のために。
- ・日本でのビザ延長の手続きがスムーズに行くように。



一時帰国

インドネシア 高橋央也・恵



お祈りに感謝いたします。1期目3年を終了し、6月末から7月末までの1カ月間、一時帰国いたしました。全行程における主のお守りに心より感謝します。この期間、個人的な交わりと教会をあわせて30箇所を訪問。訪問先ではその教会の祝福となるようにと願っておりましたが、逆に有り余ほどの励ましを受けました。宣教の主が日本各地の教会を力強く導いておられることを改めて教えられた1カ月でした。訪問を通して特に感謝したことが二つあります。①行く先々で「自分もかつて在外邦人教会で救われた（集っていた）」という方との出会い。海外で救われた魂が帰国後、日本の教会につながるのには困難と言われている中、養い導く主の真実を実感いたしました。②初めて訪問させて頂く教会の先生方、信徒の皆様の温かい歓迎と熱心な祈り。宣教地で孤独感を覚えることのあ

る私たちにとって、大きな慰めとなりました。

これらの出会いは、主が今も宣教の働きを確かに支え続けておられる証しと言えるでしょう。宣教地では言葉や文化の相違に戸惑うことも多々ありましたが、日々主の恵みにより支えられてまいりました。貴重な出会いの一つひとつを大切に、これから始まる2期目も、主の御心のみを行いたいと願っています。出会わせてくださる日本人、インドネシア人、すべての部族、国語の人々に力強い主の証しをすることが出来ますように。いつも変わらぬお祈りとお支えに、心より感謝申し上げます。どうぞ引き続きのお祈りをお願いいたします。（蝉の音が心地よい早朝の箕面福音教会2階にて。）（央也）



医療チームメンバー（高橋真一・千恵美宣教師／下の文章をご参照ください）

バルギー 川上寧・真咲

・真咲師のデピュテーション（5/20～6/25）が守られ、たくさんの祝福が与えられたことに感謝いたします。宣教の働きを共に担ってくださる支援会も与えられますように。

モンゴル 高橋真一・千恵美

・7月医療チームアウトリーチのお祈りを感謝します。ウンドルウラン村で出会った多くの方々特にAさん（16歳）

の肺高血圧症、Bさん（55歳）の依存症からの解放、そして大勢の高齢者の過酷な環境での身体の酷使と加齢から来る痛み苦しさからの癒し。また彼らの救いのために。

・奥地ウンドルウラン村の教会に牧師の後継者が与えられるように

タンザニア 日本バース

安川圭吾・美穂

・大阪府河内長野市で開拓スタートした

「ミッション・ハウス」が主に用いられて、同じビジョンを与えられている人々が導かれますように。

・美穂師の高校生ミニストリーが用いられて、一人でも多くの高校生が主と出会い、救われますように。

インフォメーション

献金芳名リスト・教会および団体（4月～6月）

アルゼンチン宣教を支える会（4） 石坂師を支える会 一麦東京 井野師を支える会（3） インドネシア福音（3） 宇井師を支える会（3） 江藤みかを支える会 浦和福音（3） 大磯キリスト（3） 大野キリスト 香登（2） 片柳福音自由（4） カナンプレイズチャーチ 可児福音 鎌倉海岸 鹿本キリスト 関西聖書学院 キリストの栄光教会 久米麗を支える会（3） クリスチャンフェローシップチャーチ（2） 神戸師を支える会（3） 御殿場純福音 堺福音 札幌福音館 シャローム福音 JEC 海外宣教委員会 鈴鹿キリスト福音（3） 泉南福音 相馬師を支える会（3） ソウルオンヌリ教会日本語部 高砂 高橋央也・恵と共に歩む会（2） 高松シオン（3） 立川駅前 タンザニアミッション（2） 津田キリスト 東栄福音 東京若枝（3） 戸山師を支える会（3） 名古屋一麦（3） 奈良福音（3） 日本イエス教団事務所（3） 朴師を支える会（3） 平塚福音 プラトナの会（3） 本郷台キリスト（3） 丸亀聖書 未伝地ミッションを支える会（3） モンゴルミッションジャパン（2） 八尾福音北九州チャペル 山形聾者キリスト 大和カルバリー（3） 山中ファミリーを支える会 ライトハウス新宿チャーチ ライフリバーチャーチ浜北 リユニオンミニストリー 和歌山福音 渡部師を支える会（3） 匿名

献金芳名リスト・個人

東静（3） 新江雅宏・裕子 石坂潤 井野葉由美 井原啓二 岩井輝子（3） Incheon Paik 宇井英樹・由美（3） エンドウコウタ 大橋祐星 夫博美 甲斐博（3） 川上寧・真咲（2） キム・ミンソク（3） 島谷みとり（2） シモノタケトシ（2） 城山直子（2） 高井ヘラー由紀（3） 高村昌昭（2） 坪内貴代子 飛田成史・紀代美 豊嶋遥名 林正敏 福澤満雄・圭子 福本和代 星出卓也・薫（3） 堀内駿城 マツウラタケシ 三浦岸雄（3） 水谷弘子 光山草姫 森川桂造 山崎利見 山下祐弘（3） ヨネタニマナ 匿名（9）
（教会・団体・個人 計 179 件）

事務局からのお願い

ご献金のお振込みには、所定の赤色の払込取扱票か、「ゆうちょダイレクト」をご利用ください。

アンテオケ宣教会の口座情報

●ゆうちょ銀行

00170 - 4 - 10379

●三菱UFJ銀行

池袋東口支店（普通） 1068695

オンライン献金

利便性のために、これまでの献金あて先の他に、オンライン献金を始めました。ご利用いただける方は、こちらのQRコードからご利用ください。



「高山嘉津子事務局長」退職のお知らせ



2003年頃の高山家・家族写真

●高山嘉津子姉は、昨年5月22日、事務所に倒れ、現在も入院・療養生活が続いており、アンテオケ宣教会としては、祈りとサポート（ご家族も含め）に力を注いでまいりました。また、38名の宣教師を派遣していますので、主の宣教の働きを留めることなく、三人の事務局スタッフのこれまで以上の働きと大田総主事・吉永主事の助けの中、何とかこの一年間をやり遂げてまいりました。

そして、入院後1年の経過を一つの区切りとして、退職の手続きを取るべく、ご家族とも話し合いを重ねてまいりました。その結果、ご家族の同意も得られたことから、去る6月26日に開催された理事会において正式に退職が承認され、同日付で退職の運びとなりましたので、ここにご報告いたします。皆様には継続的なご支援とサポート献金など多大なご支援を賜り、改めてお礼申し上げます。

高山嘉津子姉は、車輛技術宣教師として1997年以降に北米アラスカ及びロシアで奉仕されたご主人・恵太兄に同行し、また2009年よりアンテオケ宣教会事務局主事として、さらに2019年からは事務局長として事務局の中枢を担ってくださいました。

今回、退職されますが、アンテオケ宣教会として可能な限り関わらせて頂き、現在、毎週土曜日に開いている祈り会も継続する予定です。皆様方におかれましては引き続

きお祈りに覚えていただければ幸いです。
主に在りて

アンテオケ宣教会・理事会
アンテオケ宣教会 一同



アンテオケ宣教会

〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル203号

TEL: 03-5577-7035 E-mail: jimukyoku@jantiochm1977.net

ウェブサイト jantiochm1977.net 郵便振替 00170-4-10379



公式サイト
& SNS

